



浅間山



可児市立東可児中学校
令和8年2月20日発行

豊臣秀長とバラ

校長 堀田 誠

今年のNHK大河ドラマは、「豊臣兄弟！」です。皆さんもご覧になっているかと思いますが、私も久しぶりに視聴しています。若い頃、堺屋太一作の「豊臣秀長」と出会いました。漫画は大好きでしたが、文章を根気よく読破することは苦手だったため、歴史小説で名作の「竜馬がゆく」などは、最後まで読破できませんでした。しかし、「豊臣秀長」は最後まで読み切ることができました。それだけ、豊臣秀長の人生に何かを感じたのかもしれません。それから、好きな戦国武将の一人に、豊臣秀長を挙げるようになりました。秀長は、太陽のような兄の秀吉と違い、常に影的な役回りをしていました。生活も地味だったと聞きます。しかし、秀長が逝去してからの、秀吉の暴挙（朝鮮出兵、千利休切腹など）を見れば、いかに秀吉にとって大きな存在だったが分かります。教科書には、「豊臣秀長」という人物は見当たりません。しかし、その後の豊臣家の没落の歴史から、52歳という若さで亡くなった秀長がいなかったら、日本人だったらほとんどの人が知っている豊臣秀吉の全国統一はなかったのかもしれない。



晩冬の季語「スイセン」、春近し！

さて、1年2組の教室に、バラの花が咲いています。このバラの鉢は、入学式を彩るために用意されたものです。4月の学級開きの際にも、入学式で購入された花を各学級にも置いていました。その花も、長く持って夏休み前ぐらいでした。夏休みという長期の休暇を乗り切るのは難しく、枯れてしまうことが多かったです。まして、バラを育てることは結構難しいです。日当たり、水やり、剪定、肥料やりなど再度花を咲かすことは、並大抵の努力ではできないです。根気と愛情が必要となってきます。



枯れてしまった植物を見るたびに、自分の愛情の浅さを反省したものです。しかし、1年2組のバラはこの時期でも咲いています。これは、本当にすごいことです。聞いたところ、一人の生徒が夏休みも自宅に持ち帰り、そして大切に世話をしたそうです。夏休み後も枯れることなく再度花を咲かせているということは、現在まで根気強く、そして愛情をもって育ててきたのでしょう。また、一人の生徒だけでなく、クラスの仲間もこのバラの鉢を大切にしてくるのでしょう。4月ほど、たくさん花が咲いているわけではないですが、たった一輪の花がクラス全体を温かくしてくれる存在となっている感じです。

1年2組にも豊臣秀長のような人物がいました。ふと他のクラスを見てみると、秀長のような生徒もたくさんいます。今年は、秀長のような生き方がクローズアップされる年なのではないでしょうか？